

信徒講座：宣教の使命に生きる④

VI. 偉大な宣教時代(19世紀以降)

1. 近代初期

- **宗教改革期の「宣教」**：ルター、カルヴァン等宗教改革者達の関心は教会の改革、即ち、大きな力で立ち上がるカトリック教会勢力に対抗して存続する事であり、異文化世界への宣教は念頭になかった。「宗教改革者たちの中には、宣教活動そのものだけでなく、『今日我々が理解するような意味の宣教の概念さえも』見出すことが出来ない」（ボッシュ 407）
- **宣教開拓者達**：そんな中でも宣教の志に燃えた器達が少数乍ら存在し新世界へ向かった。オーストリアの貴族フォン・ヴェルツは、宣教の責務を訴え、宣教師を支える協会の設立、宣教師訓練学校の設立を訴えたが、反応は冷やかであった。彼自身オランダ領ギニアに亘ったが病死してしまう。しかし彼は「一粒の麦」となって後進への道を開いた。ルター派が形骸化した事への反動として生まれた敬虔派は宣教運動となって開花した。デンマークのバルトロメーウス・ツィゲンバルクとハインリッヒ・プリュチャウは南インドに行きタミル語聖書翻訳を行い、多くの人々に授洗した。彼らを支える宣教協会が英国で生まれた。ノルウェーで牧会していたハンス・エゲーデはグリーンランドでエスキモーに伝道し、クリスチャン部落を作った(中村 84-85)。ロジャー・ウィリアムズとジョン・エリオットはアメリカ・インディアンへ伝道し、そこで指導者を育てた。エリオットは「モヒカン語」聖書を翻訳した。

2. 宣教の偉大な世紀

19世紀は「宣教の偉大な世紀」と呼ばれる。それは、ケアリに始まる「組織化された宣教運動」に特色づけられる。

- **ウィリアム・ケアリ**：「近代宣教の父」ケアリは、クック船長の「世界航行記」を読み「異教の諸国民に福音を伝える義務」を提唱、バプティスト宣教協会を設立した。1793年、自ら最初の宣教師としてインドに渡った。後にマーシュマンとウォードが加わり「セランポールの三傑」と呼ばれた。伝道と牧会の傍ら学校と印刷所を作り、またベンガル語聖書を出版した。
- **「宣教師」という言葉と意味**：この頃から「宣教師」という言葉が使われるようになった。その意味としては「専ら聖言の奉仕に当たるべく神に召された人々で、イエス・キリストが全くではないにしても殆ど知られていない世界の諸地域に福音を伝える為に、地理的または文化的な境界を越えて働く人々」（ケイン）である。勿論広義では、全てのクリスチャンは宣教師であると言える(JOMA 世界宣教ハンドブック)が、狭義の意味での使用はこの頃から始まった。
- **「宣教協会」の誕生と働き**：ケアリの働きに触発されて、多くの「宣教協会」が生まれ、19世紀をして「偉大な宣教の世紀」と呼ばしめるような働きを推進した。これは、特定の教派に偏らず、広く宣教事業を進める土台となった。

- ・「偉大な世界宣教」：アレクサンダー・ダフ、レジノルド・ヒーバーがインドへ、アドニラム・ジャドソンがビルマへ(ビルマ語聖書翻訳とカレン族伝道)、ロバート・モリソン(中国語聖書の翻訳)、カール・ギュツラフ(中国の客家語及び日本語聖書翻訳)、ハドソン・テイラー(China Inland Mission 創設)が中国へと宣教開拓者が続いた。更にリギンス、ウイリアムズ、ヘボン、ブラウン、シモンズが日本へ、アレンとネヴィアスが韓国へと偉大な宣教師達の働きが続いた。また、ヘンリー・タウンゼントがナイジェリアへ、ロンドン宣教協会からロバート・モファットが南アフリカへ赴いた。モファットを継いだデイヴィッド・リヴィングストンは、宣教師、探検家、人道主義者として偉大な足跡をアフリカに残した。また、ルードウィヒ・クラップ(1844-95)はケニア海岸地方に宣教拠点を作った。
- ・自立教会設立の動き:宣教師達の偉大な働きを補足する為に、現地での自立教会を助ける運動が起きた。ルルス・アンダーソンは言う「国外宣教の大きな目的は、教会を植え、増やすこと」と提唱した。この提案を具体化したのが19世紀末韓国に遣わされたジョン・ネヴィアスの「ネヴィアス・メソッド」である。彼の提案は、①新しい信者は、その職業に留まる事、②教会組織は、現地の人々が自発的に治める力がつくまで待つ事、③教会が近隣への伝道を行う力がつくまで、専任の牧師赴任は行わない事、④現地の人々が自分達のスタイルで自分達の財力で会堂を建てる迄待つ事。ネヴィウス計画は、韓国長老教会始め多くの教会の成長要因となった。Alan Tippettはこの原則を現代状況に当てはめて、①Self-Image, ②Self-Function, ③Self-Determination, ④Self-Support, ⑤Self-Propagation, ⑥Self-Givingの6点に纏めた。